## ◆経済産業大臣賞◆

〈両部門にかかわる活動〉

# 「別子銅山　近代化産業遺産を生かしたまち学習―インターネットを活用し、学校・地域・行政と連携した21世紀型の郷土史料づくり マインからマインドへ―」

愛媛県立新居浜南高等学校

〒792-0836　愛媛県新居浜市篠場町1-32

**■実践事例報告の概要**

地域の基盤づくりに大きく貢献した別子銅山の近代化産業遺産を教育資源とし、インターネットを活用することで、学校・地域・行政などとの連携を深め、さらには、同様な産業遺産を持つ他地域との交流へと広がった。また、その技術を生かし21世紀型の郷土史料を作成した。インターネットの教育利用における実践を通して、鉱山（マイン）の学習から始まった活動が、人と人の交流（マインド）を生む大きなきっかけづくりとなった。

## 実践のねらい

地域の基盤づくりに大きく貢献した別子銅山の産業遺産を教育資源とし、インターネットを活用することで、学校・地域・行政との連携を深め、さらには、同様な産業遺産を持つ他地域との交流へと広げる。また、その技術を生かし21世紀型の郷土史料を作成する。それらの実践を通してインターネットの教育利用における可能性を探る。

## 特徴・工夫・努力した点

・インターネットを地元あるいは他の地域、大学や行政等との連携を図るための媒体とすることで、インタラクティブな新しい教育環境を創造。
・インターネット技術を駆使したマルチメディア型の郷土史料づくり（**資料１**）。
・作成した史料を教材として地域の大人や子どもたちと学習会やワークショップを展開。

## 実践内容

**・地域と連携した実践**

別子銅山の体験者、歴史資料館、観光施設、地元企業、NPO等多岐に渡る連携（**資料２**）。

一般及び小・中学校生を対象とした学習会やワークショップ等の開催。

**・大学と連携した実践**

愛媛大学教育学部住居学研究室と連携した協働事業の展開（**資料３**）。

**・行政と連携した実践**

新居浜市と連携した各事業への参加協力。

**・他地域等と連携した実践**

国立科学博物館、奈良文化財研究所等の関係者との連携による活動範囲の拡充。

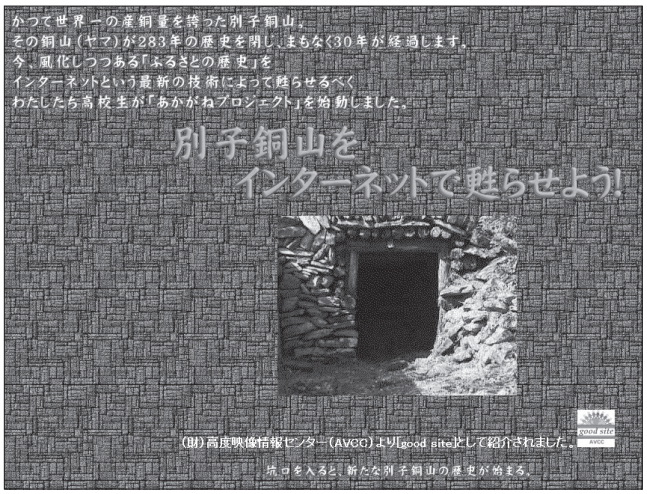
## 実践結果

**・情報の発信による大きな広がりと情報の交流により心の交流も生まれた**

インターネットを活用して情報発信することで、学校を越え、地域を越え、国境を越えた。

**・インターネットを活用して地域資源を教材化することで、郷土愛の心が育った**

資料１・マルチメディア型郷土史料



資料２・情報科学部と地域のボランティア団体との共同で平成14年４月も制作された別子銅山を学習するためのビデオ

資料３・愛媛大学教育学部住居学研究室と協働事業として４年間かけて制作した別子銅山の産業遺産八十八か所を紹介したガイドブック

**・高校生が地域・大学・行政をつなぐネットワークの役割を果たした**

**・インターネットで生涯学習と未来に向けた学習環境を創造した**

インターネットを活用すれば、いつでもどこからでも学習の振り返りや、現在の進捗状況を知ることができる。卒業後も、後輩との交流を図り共に活動している。

**・高校生自らが次世代の語り部として観光ボランティアガイド等の実践を行った**

**・マインからマインドへ**

鉱山（マイン）の学習から始まった活動が、人と人の交流を通して心と心の交流(マインド)を生み、心身ともに大きく成長させてくれる実践となった。

## 考察（今後の課題）

**・別子銅山をインターネット上で学習できる「e-ラーニングシステム」の構築**

９年間の取り組みを通し蓄積してきたホームページ、学習ビデオ、ガイドブックを統合し、オンライン型の双方向学習システムを構築する。

**・インターネットを活用した「まち学習」から「まちづくり学習」への発展**

インターネットの特質を生かし、これまで以上にさまざまな分野へ向けさらなる連携の広がりや深化を図り、「まち学習」を「まちづくり学習」へ充実・発展させる。

**・インターネット技術を活用した「語り部アーカイブ」の制作**

閉山後30年以上が経過する中で、銅山体験者の減少が著しい。このままでは郷土の文化や歴史が失われる恐れがある。そこで、体験者の語りをマルチメディアデータとして蓄積、情報発信を行い、後世まで継承する。

**・インターネットを活用した学校関連携の促進**

インターネット上で、全国や世界に同じような環境を持つ教育機関との連携を図り、近代化産業遺産に関するバーチャルな学習空間の構築を行いたい。